

【別添2】 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（教務・進路）

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ風気を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○落ち着いた態度で授業を受けることができ、自習室等なども積極的に活用している生徒も多い。 ○納得できる進路選択が行えるように、提供された進路情報を的確に活用している生徒が増加してきている。 ▲自ら設定した課題に対して、情報収集し、発表資料を作成することはできるが、課題の探究方法や解決策が提示できる生徒が少ない。 ▲自ら描いた将来像はあるが、実現に結びつけるための自主的・主体的な学習行動に移せない生徒が多い。
3 学校の抱える課題	・公開授業、授業参観の意義を全職員が意識し、ICTを活用して生徒が主体的に活動する授業が行えるよう、更に授業改善が必要である。 ・正しい進路情報だけを的確に伝え、様々な情報から自らにとって価値のある情報を生徒自身が見極められるような指導が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	◇思考力・判断力・表現力及び自ら主体的に学ぶ意欲、学ぶことの意義を理解させ、教師一人一人が積極的に授業改善に取り組む。 ◇一人一人の生徒が自己を正しく理解し、自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択決定できるよう指導に努める。

年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	①公開授業旬間の実施における 公開授業と授業参観の推進	①公開授業の実施率及び授業 参観の参観率、生徒・保護者 アンケートの項目別集計	①生徒・保護者アンケートは、昨年度より否定的 評価が減少した。公開授業実施率は100%、 2回以上の授業参観率は、68%であった。	B	○公開授業の定着率が向上した。 ▲ICTを活用した授業実践の推進 及び他教科の授業参観の喚起。	A B C D
	②チャレンジ講座等補習授業の充 実や多目的教室(自習室)の利用	②生徒及び保護者を対象とする アンケートの項目別集計	①アンケートの「校外模試やチャレンジ講座、 休日の自習室開放などに努めている」で90% 前後の好評価を得ている。	A	○自習室の積極的活用が目立つ。 ▲チャレンジ講座での到達目標再 確認、生徒に合わせた講座設定 を検討していきたい。	
進路指導	①ホールルーム活動と総合的な学習 (探究)の時間を連動させた指導	①生徒及び保護者を対象とする アンケートの項目別集計	①進路希望に応じた説明会等を、効果的に実施 したので、保護者アンケートの進路情報など について数値が昨年度より向上した。	A	○すべての生徒に対して、一人一 人の進路目標実現や個性を活か した将来設計へ向けた具体的な アドバイス、指導を行うことが できた。	A A A
	②3年間を見通した進路シラバ スを含んだ進路の手引きの作 成	②保護者等を対象とする授業 アンケート及び卒業生を対象 とするアンケート結果	②進路のしおりに大学紹介(卒業生アンケート) を掲載し、進路目標達成に向けた具体的な道 筋を思い描けるように工夫した。	A	▲効果的で適格な進路指導を行う には保護者との連携が不可欠で ある。学校での指導に対する保 護者の信頼感を高めるため、早 期から進路情報に関する親子の 対話を深める援助を検討してい きたい。	
	③望ましい進路実現のための懇 談等の積極的な実施	③生徒及び保護者を対象とする アンケートの項目別集計	③保護者懇談会等での進路資料の配付に十分配 慮した結果、情報提供についてのアンケート データが向上した。	A		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月18日

12 来年度に向けての改善方策案

進路指導について、よくご指導いただいています。探究学習は大学のゼミとは異なり、大学入試との兼ね合いがあります。進学については、保護者からの期待もあるので今後探究活動をどのように行っていくかが課題ですね。学校のICT化に伴い授業は便利でわかりやすくなりますが、学習の定着に支障が出ないよう留意してほしいです。公開授業の実施は大変良いと思います。今後も続けていってください。

・「一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている」等、生徒、保護者、学校関係者とも高評価であるが、今後の入試制度改革など生徒を取り巻く環境の変化に的確に対応していく必要があります。  
 ・公開授業が形骸化することなく、教員の授業改善の意義をしっかりと定着させる必要があります。またこれからの大学入試に対応できるように思考力・判断力・表現力を身に付けさせることができる授業デザインを考え、その活用ツールとしてタブレット等などのICT機器を効果的に活用していく。

【別添2】 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（総務・生徒指導・教育相談・保健厚生）

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ気風を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○生徒の学習意欲は比較的高く、学校行事や部活動などにも意欲的に参加する生徒が多い。 ▲温厚で真面目な生徒が多いが、自らが計画し、積極的に活動する生徒が少ないように思われる。
3 学校の抱える課題	・情報モラルなどの社会的な倫理観が欠如している生徒が少なからずいる。 ・交通ルールを遵守した自転車運転ができない生徒が存在し、交通事故が起こる原因にもなっている。 ・温厚で真面目であるが、元気よく気持ちの良い挨拶ができず、上手にコミュニケーションできない生徒がいる。
4 今年度の具体的な重点目標	◇家庭と学校の緊密な連携・協力により、生徒の教育効果の向上および福祉の増進を図る。 ◇信頼と愛情に基づく生徒理解の徹底を図り、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成をめざす。 ◇全職員による全生徒に対する相談活動を推進し、一人一人が生きがいを持ち、心豊かな学校生活を送れるように支援する。 ◇生徒に、健康と安全に対する意識の高揚を図り、たくましく生きるための知識と実践力を身に付けさせる。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導 育友会	①MSリーダーズや育友会役員とともに交通安全・挨拶運動の実施	①交通事故件数の増減	①MSLは毎水曜日、保護者には今年度は2回の運動協力をいただいたが、大幅な減少とはならなかった。	B	○育友会、MSLの挨拶交通安全運動によって、近年増加傾向にあった交通事故件数は、僅かではあるが減少させることができた。 ▲命に関わる大切な問題として、今後も粘り強く指導していく。	A B C
	②身だしなみ指導	②生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	②アンケート項目の生徒指導の数値は、今年度も高い水準である。	B		
	③交通マナー・生活マナーの向上	③生徒・保護者アンケート	③継続的な啓発活動、指導を行い、僅かではあるが向上している。	B		
生徒指導 教育相談	①「いじめ・迷惑調査」の実施	①いじめの発見と事後指導	①年間5回の「迷惑・いじめ調査」を実施し、把握に努めている。	B	○「いじめ・迷惑調査」「i-check」の事後指導により、いじめの未然防止、即時対応や問題生徒の把握及び即時対応ができた。 ▲調査での完全な把握は困難であるが、調査方法を研究していく。	D
	②「i-check」の実施	②問題生徒の把握と事後指導	②「i-check」を年2回実施し、問題生徒の把握と、事後指導を実施した。	A		
	③人権教育の推進	③人権LHRの評価	③各学年、ホームルームで工夫有る取り組みをした。	A		
保健厚生	①「命を守る訓練」等の防災訓練による防災意識の向上	①訓練の参加態度及び避難完了までの時間	①防災意識が高められるように訓練と注意喚起を実施	B	○防災意識は向上できている。 ▲職員を含めた防災時の訓練や、検査罹患率向上など改善し、より健康を高められるようにしたい。	
	②非常変災時の生徒の状況把握	②非常変災時の予行演習結果	②昨年よりもスムーズに行い、携帯電話のURLブロック等の課題確認	B		
	③生活習慣改善指導の実施	③保健室の利用状況や疾病の罹患状況	③保健室の利用状況増、罹患状況減少	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月18日

12 来年度に向けての改善方策案

現在、防災対策が重要視されています。東高は地域の避難場所に指定されており、地域住民にとっても大切な場所です。今後も命を守る訓練等の取組の工夫をお願いします。また、価値の多様性への対応として性別にとらわれない制服の在り方の検討を続けてください。生徒の交通事故の中で自損事故が目立ちます。通学については生徒も保護者も意識の涵養が大切です。

- ・担任負担を軽減するため「i-check」を「SERAPLUS」に変更し年1回の実施としたい。
- ・防災意識向上のため、命を守る訓練を全校(生徒・職員)体制での実施を試みたい。
- ・生徒、保護者に、交通事故防止は命に関わる問題と意識できるよう、MSリーダーズ、育友会の活動を活用する。人権教育を通して、価値観の違いを受容する心を育む。

【別添2】 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（特別活動・理数科教育）

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ気風を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○学校行事、ボランティア活動に意欲的に参加している。 ▲リーダーを養成する機会が不足。（クラス独自のLHR時間を増やす）
3 学校の抱える課題	・大人しい生徒が多く、積極的にリーダーシップの取れる生徒が減少してきている。 ・学校行事に取り組む姿勢はととても良いが、行事を企画・立案・先導する力が乏しい生徒が少なくない。
4 今年度の具体的な重点目標	◇生徒の自主的、実践的活動の推進と帰属意識の高揚に努め、社会の一員として自主的、実践的な態度を育て自己を生かす能力を養う。 ◇科学的な思考力、創造力を社会に還元できるような豊かな人間性と実行力をもった生徒を育成する。

年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒会活動	①生徒会活動、学校行事等の自主的な企画・運営	①行事等終了後の生徒アンケートの項目別集計値	①先見性を持ち、次年度のことも視野に入れて活動している。	A	○参加しているボランティア活動は意欲的に参加している ▲参加できるボランティアを増やす。特別活動部以外の教員の引率等。	A B C D
	②リーダーの養成	②行事等終了後の生徒アンケートの項目別集計値	②生徒のリーダーと教員とのコミュニケーションを積極的に取り課題を共有し活動している。	B		
	③ボランティア活動などの地域活動への積極的参加	③外部諸団体、学校関係者から寄せられた声	③エセ街頭募金は多くの生徒が参加し、養老華園訪問は、各部・家庭クラブと連携し意欲的に参加できた。	B		
HR活動 部活動	①ホームルーム活動における集団生活の適応力及び人間関係の醸成	①生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	①友人との良好な関係作りやコミュニケーションを図る場として活用している。文化祭などのクラス単位の活動には積極的に取り組んでいる。	B	○昨年度以上の成果を収める部が出た。（放送、華道など） ▲より一層の部活動環境の整備を図っていく。	D
	②集団で協力する態度の育成	②生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	②部活動の活性化と満足度には部により温度差がある。専門的な指導者の有無や活動環境の良し悪しも影響している。	B		
理数科	①近隣の小学校へ実験等理科教育活動の提供	①生徒及び小学生を対象とするアンケート結果	①南小学校の児童に対し、体験的な理数の講座を実施することができた。	B	○理数分野への興味関心を高めること、論理的に説明する能力を高めることができた。	
	②課題研究への取組	②課題研究報告会の公開	②ウェビナーの数を増やし、研究、発表の方法を学びながら、探究活動を実施することができた。	A		
	③適切な進路指導の選択を含めた校外研修や専門的な講義の実施	③高大連携講座等の実施	③高大連携講座や校外研修を通して、自然科学分野の研究を知り、進路選択の参考にすることができた。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月18日

12 来年度に向けての改善方策案

理数科研究報告会を見学し、自分の研究を自分の言葉で話すことは大切だと思いました。この経験を生活の中で深めていくことが望まれます。今後プレゼン能力を向上させるために生徒同士がよく話し合っって質を高めてほしいと希望します。自分たちで課題を発見し探究する力は社会に出てからも役立つ力です。

- ・働き方改革を推進して教員の仕事に余裕をつくり、生徒との協働活動できる時間を確保する。
- ・課題研究の内容と発表の質を高めるため、中間報告会など発表の機会を増やす。